



「履き物をそろえる」ことの意味

校長 井上 貴文

2学期が始まりました。学校に子供たちの元気な声が戻ってきました。

先日の全校朝会でも子供たちにも話しましたが、2学期は、自身のよさを実感し発揮できる学校行事がたくさんあるので、子供たちがそれぞれに目標に向かって取り組み、心身ともにさらにたくましく成長してほしいと願っています。



さて、明和小学校の子供たちのさらなる「心の成長」を期待して、学校の一時徹底項目に掲げている「履き物をそろえる」ことについて、みんなで考えたいと思います。

右の詩の作者は、長野県円福寺で住職を務めていた藤本

幸邦（ふじもとこうほう）という人です。藤本住職は、第二次世界大戦後、焼け野原になった東京で、子供たちの生活環境が悪化していることに心を痛め、自分の寺で子供たちの面倒を見ていました。その時の二度と戦争を起ささないという指導経験の中からこの詩が生まれたそうです。



この詩からわたしたちは何を学ぶことができるのでしょうか。自分の履き物をそろえずに脱ぎっぱなしにするという行動は、後から来る人のことをまったく考えていません。校内でよく見かけるのは、トイレを出るときに、スリッパの向きを変えずにそのまま出て行っている姿です。そろえる「揃」という漢字は手偏に前と書きます。手を添えて前を向けることが大事です。反対に、自分の履き物をそろえることができる人は、自分の行動を冷静に考えられ他人のことまで考えられる人です。そして、他の人が乱した履き物までそろえることができる人は、さらに素晴らしいですね。

はきものを そろえる

はきものを そろえると  
こころも そろう  
心が そろうと  
はきものも そろう

ぬぐときに そろえておくと  
はくときに こころがみだれない  
だれかが みだしておいたら  
だまってそろえておいてあげよう

そうすればきっと  
よのなかの ひとのこころも  
そろうでしょう

藤本 幸邦

このように、「履き物をそろえる」という行為は、子供たちが心豊かに成長するためにとっても大切なしつけなのではないでしょうか。各家庭ではいかがでしょうか。地域の公民館などではいかがでしょうか。これは誰にでもできることです。よくできたときにはおおいにほめてあげてください。自己肯定感を高める一助ともなります。子供たちの豊かな成長を願う皆さんの共通の思いを子供たちに届けることができるといいのではないかと思います。

おめでとう！ 7年連続学校賞 受賞 ～南日本硬筆展～

子供たちが1学期に取り組んだ南日本硬筆展で、本校は7年連続となる「学校賞」をいただきました。これは、継続的に学校全体として取り組んできた成果であり、また、個人としてもたくさんの子供たちが日々取り組んできた成果であると思います。特別賞を受賞した子供もおり、全校朝会でも紹介したいと思います。これからも、それぞれの得意分野に精一杯取り組み、成果を上げてくれることを期待しています。

